

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 1 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530669

研究課題名(和文) 滞日ムスリムに関する住民意識の三地域比較調査研究と多文化政策再考

研究課題名(英文) Survey on consciousness of Muslims living in Japan and Reconsideration of multicultural policies

研究代表者

店田 廣文(Tanada, Hirofumi)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：20197502

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：2005年から開始した滞日ムスリム調査研究の総括をおこなった。これまで蓄積してきた在日ムスリム調査、全国モスク調査、全国モスク代表者会議、各地での日本人のイスラーム認識に関するアンケート調査と全国のモスクやムスリムに対するインタビュー調査の成果などを総合して、全国各地に所在するモスクの現状と、滞日ムスリムの生活世界の現状および将来の課題をまとめる作業をおこない、その成果を発表した(『日本のモスク：滞日ムスリムの社会的活動』(店田廣文著、山川出版社、2015年3月)。
また全国マスジド(モスク)代表者会議を、第5～7回まで継続して実施し、日本社会とムスリムとの関係構築にも尽力した。

研究成果の概要(英文)：We have conducted Social Surveys on Muslims living in Japan since 2005. We published research papers and made academic presentations, making use of the analysis of the results of these surveys. At the end of this research project, we conducted summarization of our researches and surveys on Muslims, Mosques in Japan as of 2013-2014. It was published as a book named "Mosques in Japan: Social Activities by Muslims in Japan"(Yamakawa Shuppan sha, 2015, 112p).
We also held "Meeting of Representatives of Masjids in Japan" in 2013, 2014 and 2015. These are important activities for formation of mutual relationships between Muslim communities and Japanese communities.

研究分野：社会学

キーワード：滞日ムスリム モスク イスラーム 移民 コミュニティ 多文化政策 国際社会 エスニシティ

1. 研究開始当初の背景

滞日ムスリム人口の動向をみると、これまでのアジア域内からの外国人入国者の増加とともに、わが国はムスリムの登録外国人数のみならず日本人ムスリムの増加を経験してきた。イラン・パキスタンをはじめとする国々からの入国者は、一時に比べ激減しているものの、東南アジアからの入国者の増加に伴い、2011年現在およそ11万人のムスリムが居住していると推計されている。このような現状とリンクする形で、日本各地にモスク（イスラム教寺院）が開設されて既に60ヶ所以上に及び、今後の増加も予想される状況があった。

在日外国人研究の潮流としては、地域における外国人の増加とそれに伴う地域住民との葛藤や、日本社会における外国人を中心としたエスニックコミュニティの形成、アイデンティティ等を取り扱う研究が数多くなされているほか、彼らの社会経済的側面、日本の制度的側面に注目した労働者問題、人権、子どもの教育、参政権、共生/統合に関する分析等が蓄積されてきた。しかしながら、これらの諸研究は在留外国人の中で人口量の多い日系人、在日コリアン等を対象としたものが多く、滞日ムスリムに関する個別の研究は、未だ十分に研究の蓄積が進んでいないと言え、新たな移住者の存在と日本社会との関係性を論じた知見の提出が急務であった。

滞日ムスリムに関する研究は、1990年代に徐々に散見され、日本における滞日ムスリムをめぐる研究では、対象となるムスリム自体に焦点を当てたものが主流となっていた。しかし、移動先であるとともに、コミュニティが形成される場となる日本（非ムスリム）社会との関係性の検証についてはほぼなされておらず、各論考の中で必要性が喚起されているものが散見される程度であった。

これまでの滞日ムスリムを対象とした研究には、日本において生活基盤を築きつつある滞日ムスリムの生活世界を多面的に明らかにしつつ、日本社会との関係性の中でそれらを捉えるという包括的視点が決定的に欠けていた。また、そうした研究の僅少さから、西欧におけるムスリム・コミュニティを含む移民社会研究や、日本における日系ブラジル人研究等を中心に展開しているエスニックな文化的領域の形成にともなう「共生」「統合」をめぐる議論や具体的な視座の提出といった作業も、滞日ムスリム研究では未だ十分に進んでいないのが現状であった。

われわれは滞日ムスリムの生活世界について(1)総合的な生活実態の把握・分析、(2)モスクなど宗教的基盤や教育施設など制度形成過程の把握・分析、(3)中古車輸出業、ハラルショップなど、経済的領域における適応過程および社会的ネットワークの把握を、日本社会側の視点としては(4)ムスリム集

住地域周辺の非ムスリム日本人を対象とした意識・態度の把握を目的として調査分析を実施し、論文・報告書および日本社会学会・日本中東学会での学会発表を行ってきた。

それらは、『在日ムスリム調査 関東大都市圏調査』2006、『滞日ムスリムの子ども教育に関する調査報告書』2010、『日本のモスク調査1』2008、『日本のモスク調査2』2009、岡井宏文「イスラム・ネットワークの誕生」(『国境を越える』2007)、岡井宏文ほか「地域住民におけるムスリム・イスラーム意識・態度の規定要因 岐阜市調査の事例より」(『イスラーム地域研究ジャーナル』2011)、『外国人に関する意識調査 岐阜市報告書』2011、などとして結実している。また、その後、富山県射水市と福岡県福岡市にて(4)に該当する調査の実施と分析をすすめてきた。この他、ムスリム・コミュニティと日本社会を架橋する試みとして、2008年度より全国のモスクより代表者を招聘し議論する「モスク代表者会議」を実施するとともに、『全国モスク代表者会議・会議の記録』(2009、2010、2011年)にまとめ刊行している。

滞日ムスリムの実態について、全国規模での調査・分析結果を提供する先駆的役割を果たし、移住・適応過程とネットワークを明らかにするという、これまでの成果により滞日ムスリムをめぐる生活世界の様相は、一定程度明らかになったと考える。しかし、上述の研究動向から、日本各地の滞日ムスリム・コミュニティは、未だ形成過程にあり、継続的な調査・分析が必要であること、同時に従来の諸研究では蓄積されてこなかった日本の社会構造との関係性の検証を主題に組み込んだ調査研究を深化させる必要性があった。

そこで本研究では、これまでの継続的に実施してきた調査・分析を更に発展させ、滞日ムスリムの移住過程における制度形成のメカニズムとネットワーク(コミュニティ)構築の分析(質的研究) 複数の滞日ムスリム集住地域における周辺住民のムスリムとの関係性に関する意識・態度の規定要因の比較分析(量的・質的研究)が必要な状況であった。

2. 研究の目的

本研究は、滞日ムスリムおよびムスリム集住地域の住民(非ムスリム)を対象として、「滞日ムスリムに関する住民意識の三地域比較調査研究と多文化政策再考」という主題のもと、岐阜市、富山県射水市、福岡県福岡市における日本人住民のイスラーム認識に関する調査と分析を主に実施する。これらの結果をふまえてムスリム・非ムスリムという地域社会を構成する両行為主体を対象とし、各地のコミュニティにおける滞日ムスリムの生活世界の把握、日本社会との関係性

の分析、日本社会側の視点によるムスリム・イスラームに対する意識・態度の把握を軸として、包括的に上記の主題に迫ることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、滞日ムスリムの生活世界とコミュニティ、ホスト社会側である地域社会双方の実態を質的・量的側面から把握してゆく。岐阜市はじめ3地域でのアンケート調査に加えて、滞日ムスリムの日本社会における宗教的基盤となるモスクをはじめとする当該地域のコミュニティに着目し、制度形成の過程をインタビュー調査によって記述・分析を行うこととした。さらに、イスラーム・ムスリムに関する意識・態度について自由連想法で得たデータをテキスト・マイニングによって分析し、イスラーム・ムスリムに対する認識に関する研究を実施した。

4. 研究成果

本研究の最終成果として、これまで蓄積してきた滞日ムスリム調査研究における、在日ムスリム調査、全国モスク調査、全国モスク代表者会議、各地でのアンケート調査とインタビュー調査の成果などを総合して、全国各地に所在するモスクの現状と、滞日ムスリムの生活世界の現状および将来の課題をまとめる作業をおこない、その成果を発表した。『日本のモスク：滞日ムスリムの社会的活動』（店田廣文著、山川出版社、2015年3月）が、これに相当するものである。それに加えて、文化庁文化政策課の依頼にもとづき「日本のイスラーム：ムスリム・コミュニティの現状と課題」（店田廣文・岡井宏文著、『宗務時報』119号、2015年3月）を執筆し、とりわけこれまで解明が遅れていた全国のイスラーム関係団体の宗教法人化と一般社団法人化の現状について報告した。

この他、滞日ムスリムと日本社会との交流を意図して、滞日ムスリムの協力のもと、2008年度より継続して全国モスク（マスジド）代表者会議を開催しており、第5回会議では、近年話題となっているハラールに関連する「日本のムスリムー食を語る」第6回会議では「地域コミュニティとマスジドの将来像」として滞日ムスリム・コミュニティの今後の課題を取り上げた。第7回の会議では「ヤングムスリムの将来設計 学ぶ・はたらく・生きる」（2015年1月31日）と題して、次世代問題を議論した。第7回会議の直前にはISをめぐる事件が勃発し、滞日ムスリムとISに関する課題も議論され、日本社会とイスラームも議論となるなど今後の研究課題が俎上にのぼった。なお、各地域の多文化政策に関する調査研究についてはまだ未完の部分が多く、今後の課題として残っている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 8 件)

1. 店田廣文・岡井宏文：2015 日本¹のイスラーム：ムスリム・コミュニティの現状と課題、宗務時報、査読なし、119号、1-22頁。

2. Sor Tho Ng, Nai Peng Tey, Bik Kai Sia, OKAI Hirofumi, TANADA Hirofumi, 2015, "Push and Pull Factors, Issue and Problems faced by International Muslim Students of University of Malaya", Kazuaki Sawai, Yukari Sai, OKAI Hirofumi, eds., *Islam and Multiculturalism: Exploring Islamic Studies within a Symbiotic Framework*, Tokyo: Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, pp.50-61. (査読無)

3. KOJIMA Hiroshi, 2014, "Variations in Islamic Faith and Practice among Muslim Immigrants: A Comparative Analysis of East Asia and Europe." Organization for Islamic Area Studies, Waseda University and Asia-Europe Institute, University of Malaya (eds.), *Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis*, JSPS Asia and Africa Science Platform Program, Tokyo: Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, pp.7-15. (査読無)

4. OKAI Hirofumi 2014 "Non-Muslim Japanese Resident's Attitudes toward Islam and Muslims -A Case Study of Fukuoka City", *Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis*, University of Malaya and Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, eds., *Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis*, Tokyo: Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, 139-150. (査読無)

5. TANADA Hirofumi, 2013, Islamic Research Institutes in Wartime Japan: Introductory Investigation of the "Deposited Materials by the *Dai-Nippon Kaikyo Kyokai* (Greater Japan Muslim League), *Annals of Japan Association for Middle East Studies*, 査読あり、28-2、pp.85-106.

6. 小島宏, 2013, 「日本・韓国・台湾のムスリム移動者におけるハラール食品消費行動の関連要因」『早稲田社会科学総合研究』, 査読あり、第14巻, 第1号, pp.1-22.

7. 店田廣文 : 2013 世界と日本のムスリム人口 2011 年、人間科学研究、査読あり、26 巻 1 号、27-37 頁。

8. KOJIMA Hiroshi 2012 "Correlates of Cross-Border Marriages among Muslim Migrants in Tokyo Metropolitan Area: A Comparison with Seoul Metropolitan Area," *Waseda Studies in Social Sciences* (『早稲田社会科学総合研究』), 査読あり、Vol.13, No.1, pp.1-17

〔学会発表〕(計 13 件)

1. 小島宏 2014 「東アジアのムスリム移動者のトランスナショナルな家族とハラール食品消費行動」日本社会学会第 87 回大会、神戸大学 2014.11.23

2. KOJIMA Hiroshi 2014, "Halal Food Consumption among Muslim Migrants in Tokyo, Seoul, and Taipei Metropolitan Areas." *World Congress of Middle Eastern Studies (WOCMES4)*, Ankara, 18-22 August 2014. Middle East Technical University, Turkey

3. OKAI Hirofumi, MURATA Hisashi, 2014, Religious Beliefs and Practices in Japan, *World Congress of Middle Eastern Studies (WOCMES4)*, Ankara, 18-22 August 2014, Middle East Technical University, Turkey

4. 店田廣文 2014 イスラム教徒人口の将来推計. 第 66 回日本人口学会大会 (明治大学) 2014.06.15

5. 小島宏 2014 「西欧と日本におけるイスラームフォビアの比較分析」日本中東学会第 30 回年次大会、東京国際大学第 1 キャンパス 2014.5.11

6. KOJIMA Hiroshi 2013 "Variations in the Islamic Faith and Practice among Muslim Immigrants: A Comparative Analysis of East Asia and Europe," *International Seminar on Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis*, 20 -21 December 2013, Waseda University 2013.12.20.

7. OKAI Hirofumi, 2013, Perceptions of Islam and Muslims in a Local Community in Japan, *NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference* (Nov. 2013), Lahore University of Management Sciences, Pakistan

8. 店田廣文 2013 日本のムスリム・コミュニティと地域社会 - 福岡市東区における「外国人住民との共生に関する意識調査」よ

り - . 日本中東学会第 29 回年次大会(大阪大学) 2013.05.12

9. 岡井宏文、2013、自由記述データを用いた地域住民におけるイスラーム・ムスリム意識の分析 - 福岡県福岡市調査の事例より、日本中東学会第 29 回年次大会(大阪大学) 2013.05.12

10. 小島宏 2012 「日韓のムスリム移入者における宗教実践の関連要因」第 85 回日本社会学会大会、札幌学院大学 2012.11.4

11. 店田廣文 2012 日本における「ムスリム・コミュニティ」の発展と地域住民のイスラーム認識. 第 59 回日本都市学会全国大会(西日本工業大学) 2012.10.28

12. 店田廣文 2012 日本のムスリム・コミュニティと地域社会 - 射水市における「外国人に関する意識調査」より - . 日本中東学会第 28 回年次大会(東洋大学) 2012.05.13

13. 岡井宏文 2012 地域住民におけるイスラーム・ムスリム意識 - 富山県射水市調査の事例より -、日本中東学会第 28 回年次大会(東洋大学) 2012.05.13

〔図書〕(計 7 件)

1. 店田廣文 2015 日本のモスク：滞日ムスリムの社会的活動、山川出版社、112 頁 .

2. TANADA Hirofumi, ISHIKAWA Kiju, OKAI Hirofumi, : 2014 Attitude Survey on Foreign Nationals - Imizu City Report *Research Papers: Muslims in Japan* No.13 早稲田大学人間科学学術院

3. 小島宏・店田廣文 2014 第 5 回全国マシジド(モスク)代表者会議「日本のムスリム、食を語る」2013 年 2 月 10 日 早稲田大学アジアムスリム研究所

4. 店田廣文・石川基樹・岡井宏文 2013 外国人住民との共生に関する意識調査・福岡市報告書 *Research Papers: Muslims in Japan* No.12 早稲田大学人間科学学術院

5. 小島宏・店田廣文 2013 第 4 回全国マシジド(モスク)代表者会議「東日本大震災と被災者支援活動」2012 年 2 月 12 日 早稲田大学アジアムスリム研究所

6. 店田廣文・石川基樹・岡井宏文 2012 外国人に関する意識調査・射水市報告書 *Research Papers: Muslims in Japan* No.11 早稲田大学人間科学学術院

7. 岡井宏文、2012、イスラム教徒とともに生きる、移住労働者と連帯する全国ネットワーク、移住者が暮らしやすい社会に変えていく30の方法、合同出版、東京、114-117

〔その他〕

2009年度より開設している滞日ムスリム調査ホームページに、これまでの調査報告書、全国マスジド(モスク)代表者会議の議事録、全国モスク調査の記録、最新の全国モスクリストなどを掲載し、随時更新している。

<http://imemgs.com>

6. 研究組織

(1)研究代表者

店田廣文 (TANADA Hirofumi)
早稲田大学・人間科学学術院・教授
研究者番号：20197502

(2)研究分担者

岡井宏文 (OKAI Hirofumi)
早稲田大学・付置研究所・助手
研究者番号：10704843

(3)連携研究者

小島宏 (KOJIMA Hiroshi)
早稲田大学・社会科学総合学術院・教授
研究者番号：90344241

村田久 (MURATA Hisashi)
環太平洋大学・次世代教育学部・准教授
研究者番号：80350445